

おいしいみかんを未来まで！

千葉県八千代市立萱田小学校 六年 高砂 明奈

私は、冬になるとみかんを一日に何個も食べます。冬になると旬になるみかんは、甘酸っぱい果汁が口の中で広がるので、やみつきになつてしまうからです。特に、温州みかんはとても甘く、皮がむきやすいので大好きです。

ですが、すばらしい果物みかんにも、解決しなければならぬ大きな課題があります。その大きな課題とは、「みかん農家の減少」です。この課題には、農家の高いいや、後けい者の不足などがあります。みかん農家の平均年れいは約七十二さいで、他の農家の平均年れいの約六十八さいを大きく上回っています。また、みかん農家の作業は急斜面で行うため、とてもたいへんだそうで、みかん農家をやりたいという人がとても少ないそうです。では、この課題は解決できず、未来でおいしいみかんは食べれなくなるのでしょうか。

それはちがいます。みかん農家の方が高い化が進んでいる中、日々その課題を解決し、未来でもおいしいみかんを食べれるように、たくさんの工夫をしているからです。例えば、最近東京都から移住してくる方を中心に、自然の中でのびのびと働けると、後けい者をSNSで募集するなどがあります。他にも、子どもも参加することができる、みかんの収穫体験でみかん農家の仕事を知ってもらうなど、みかん農家の方はこの課題を解決しようと積極的に取り組んでいます。

私もみかん農家の方がみかんを未来でも食べれるように工夫をしているように、できることをさがして、おいしいみかんを未来まで食べられるようにしたいです。